

外傷に関する疫学的な研究に診療記録を使用することについてのお願い

患者様および患者関係者様 各位

外傷は、厚生労働省の統計によると1才から24才までの死因の第1位になっています。日本の将来を担う若い人たちの命が、外傷により奪われていることは憂慮すべき事態であり、外傷診療の質の向上は、国益を鑑みても非常に重要なことです。外傷診療の質の向上のためには、第1に外傷患者に関わるデータを広く集積すること、第2に集積したデータを解析すること、第3に解析結果を医療現場にフィードバックすることが必要です。そこで我が国では、日本救急医学会と日本外傷学会が中心となり、外傷データを集積・解析することを目的として「日本外傷データバンク」が構築され、多くの参加医療施設が外傷データの登録を行っています。

小牧市民病院救命救急センターは、入院患者様に提供する医療の質的向上を目指し、多大な努力をして参りました。その中には、診療データを検討したり、解析したりすることも含まれます。そして、今後は他の多くの施設とも協力し、より多くの診療データを集積して分析することが求められています。そこで、外傷に関する疫学的研究を進めるにあたり、あなたの「診療記録」をあなたの診療以外の目的で利用させていただくことについて、ご説明いたします。

方法は、あなたの外傷の診療を行った後に、あなたの「診療記録」から医学的事象について検討し、「日本外傷データバンク」に外傷データの登録を行うというものです。診療後の作業ですから、あなたの診断や治療には直接関係いたしません。また作業にあたって、あなたの年齢、性別、診断などの医学的な情報は必要ですが、あなたの氏名、生年月日など、個人の特定に繋がる情報は必要ありません。つまり、このような「診療記録」の利用方法によって、あなたの特定に繋がる情報は作業に含まれませんから、集積されたデータを解析した結果について、医学会などで公表して検討を行う場合においても、あなたのプライバシーが侵されることにはなりません。以上の方法による「診療記録」の使用について、あなたが拒否することは自由意思であり、いつでもそのことを申し出ることができます。その場合においても、あなたの病気の診断と治療になんら不利益を被ることはありません。あなたの「診療記録」の利用は、外傷に関する臨床実践を進めていく上で、より良質な医療の提供に結びつく大変重要なことあり、それを行うことは、私たち医療者の使命でもあります。

お分かりにならない点がありましたら、担当の医師にご質問ください。ここに述べました「診療記録」の利用方法による「日本外傷データバンク」への外傷データ登録には、ぜひともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

小牧市民病院

救命救急センター部長 井上卓也